

## 本年度の重点目標

- 1 教職員の実践力（授業力）の向上
- 2 地域における特別支援教育のセンター的機能の推進
- 3 人権意識豊かで、居心地のよい学校づくり
- 4 信頼される安全・安心な学校づくり
- 5 学校課題の解決に向けた取組

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	校長は、学校課題を踏まえ、教職員の共通理解を図りながら、円滑な学校運営に努めている。			
	学校は、児童生徒・保護者・地域の願いや期待を踏まえ教育目標を設定している。			
2 教育課程・学習指導	児童生徒の実態に応じて、個別の指導計画に基づき適切に教育活動を行っている。			
	児童生徒の学習状況や生活の様子を保護者に分かり易く知らせている。			
3 生徒指導	児童生徒の生活上の課題を的確に把握し、状況に応じたきめ細やかな指導をしている。			
	基本的生活習慣や社会的マナーなどを身につける指導に努めている。			
	いじめを見逃さない意識と自覚をもって児童生徒の学校生活の把握および指導を行っている。			
4 進路指導	児童生徒個々の実態や課題に応じたキャリア教育を計画的に進めている。			
	児童生徒・保護者に進路選択について必要な情報を知らせている。			
5 保健・安全指導	児童生徒のけが、病気、事故などの未然防止に努め、適切に対応し、状況を保護者に連絡している。			
	学校は、感染症の感染防止に向けた取り組みを十分に行っている。			
	児童生徒の健康状態について健康観察や検診により正しく把握し、健康管理に努めている。			
6 人権教育	児童生徒がお互いを認め合うと共に育ちあう指導を行っている。			
	仲間作りや命の大切さを学ぶ機会をもうけている。			
	教職員の人権意識の向上を図るとともに、児童生徒の人権を尊重した指導を行っている。			
7 環境教育	ゴミの分別や清掃活動を通して、環境を考える取り組みを行っている。			
	児童生徒の実態に応じて節電や節水を含めて、ものを大切にすることを指導を行っている。			
8 交流及び共同学習	地域に向けて、本校並びに本校の児童生徒への理解啓発に努めている。			
	地域との連携を大切にしながら取り組みを進めている。			
9 教職員の現職教育	校内での様々な研修会等を積極的に行い、教員の個別的、集団的な専門性の向上に努めている。			
	教材研究や授業研究等の活動を通して、授業改善やICTを活用した指導力の向上に努めている。			
10 センター的機能の発揮	巡回指導等を通して地域のニーズに応じた特別支援教育のセンター的機能の充実に努めている。			
	保護者や地域の教育機関のニーズに対応した相談体制を整えている。			
11 その他学校の取組	学校の教育活動についてホームページや学級通信等を通じて保護者や地域に発信している。			
	学校として、児童生徒の著しい増加に対する教育的環境の整備に努めている。			

(注) ・評価については、A B C Dの4段階で示す。

・生徒指導の欄に、いじめの項目を入れること。また、教職員のICT活用指導力の向上、キャリア教育に関する項目について、任意の領域に含めること。

・自己評価：A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合（達成度80%以上）はA、おおむね達成できた場合（達成度60%以上80%まで）はB、あまり達成できていない場合（達成度40%以上60%まで）はC、達成できていない場合（達成度40%未満）はDとする。ただし、アンケートの結果等を機械的にA B C Dの評価に置き換えるのではなく、学校の現状を真摯に分析・検討し、今後の学校改善につながるよう、適切に評価すること。